

世にも不気味な社員研修

「ブラッック研修」とは

読んで字の如く、これは、企業において行われる社員の人格を否定したり、不可解なことを強要したりする研修のことで、社員の身体と精神を追い詰めアイデンティティを破壊し、会社にとって都合の良い駒として仕立て上げることが目的としています。

具体例としては、自己紹介や社訓・社歌などを大声で発声する「一日中、土下座の練習をさせられる」ひたすら穴を掘り、それを埋める作業を繰り返す」路上でノルマ枚数が終わるまで知らない人との名刺交換をさせられる」など意味不明なものばかりですが、**会社としては、こうした正常な感覚の人間であれば出来るはずもない事を、土」から強要することで、それが出来ない社員に対し、お前は能力がない」というねじれた論理をでっちあげることが出来ます。**このように、わざわざ社員の尊厳を踏みにじるようなことをするのは、会社経営において経費を抑えることは大きな課題であり、労働者側が稼ぐためには人よりも動かなければならない、稼げないのは能力がない私の自己責任である」と考えるようになれば、会社はやらんけどお前らはやれ」という主旨のさまざまな施策（労働強化）が可能になるからです。

わが社の「接客実践研修」

この研修は、お客さまから「ご意見」を貰った社員を研修センターに集め教育するというものです。しかし、赤信号を渡ろうとした人や無札の乗客を注意した社員らが研修対象になったという事実からも、「ご意見」とは単なる「クレーム」のことで、言ってしまうと、乗客から「穴つ当たり」「逆ギレ」によって因縁をつけられてしまうわけです。社会的には、伝え方が大事」乗せてあげているという態度は良くない」らしいですが、**実際に「クレーム」が来たとき、会社が社員を守るために、お客さまが間違っている旨を丁寧に「伝えていく」わけでもなく、また、度を越した経費削減により、お客さまの利便性は悪化する一方で、それこそ「乗せてあげている」という態度しか感じられません。**当研修では、人格否定としか思えないほどの高圧的な教育がなされているようですが、これは、合理化によるお客さま満足度の低下を社員の接遇の問題にすり替えるための「労働強化」の一環と言えます。

駅の無人化、車いすの乗車拒否、一部座席の撤去、グリーン車のプランケット貸出しの取りやめ、特急列車のトイレ内の石鹸水の撤去



研修では「申し訳ございません」を何十回も言わされるようですが、お客さまに謝罪すべきことをしているのは会社の方です。



第 158 号

2022 年 1 月 1 日

発責 国労九州本部

博多区博多駅東3丁目9番3号

ニッコーハイツ1003号

JR 092-2075

NTT 092-483-1515